2011 年度「日本海洋学会青い海助成事業」　申請書

○ 申請する活動の名称：

「干潟の環境公共広告制作と手法構築のための
メディア・クリエイティブ向けワークショップの開催」

○ 活動期間

2011 年 4 月 1 日～2012 年 2 月末日（1 年間）

○ 申請代表者情報

氏名：山下　博美（日本海洋学会会員）
所属・身分：名古屋大学大学院環境学研究科　特任准教授
連絡先：（住所）　464－8601　名古屋市千種区不老町 D2-1 (510)
（電話）　052－747－6547　（メール）h.yamashita@nagoya-u.jp

○ **当該申請活動の具体的な内容**：

本活動は、沿岸環境の中でも特に市民が日々直接触れることがなく「なくてもいい」と感じられがちな干潟に焦点をあて、その社会的価値を高めるには、どのような環境広告が有効であるか、現職のメディア・クリエイティブ及びメディア専攻の大学院生とワークショップを通じて考察、広告制作を行うものである。完成広告とその学びは、シンポジウムを始め国内外に広く発信される。

干潟の社会的価値を高めるための教育やコミュニケーションの手法には、これまで数多く行われてきた説明第一主義的なアプローチ（生態系サービスの説明等）の他に、人々を惹きつける新しい手法の創出が望まれており、メディア論や、社会の便益のための活動とマーケティングの融合を試みる「社会マーケティング」論からも学びを得るところが大きい。

また自身のこれまでの研究によると、干潟の社会的なステータスの低さは、直接接していない人にはマイナス・イメージがあること（視覚的に単なる汚い泥に見える等）、また進化心理学で言われる「人間の脳が認知しにくい環境リスクの 3 大特徴」（表１）を全て持つことからであると考えられる。映像メディアという媒体を使い、この 3 つの特徴を乗り越えるにはどのような手法が可能であるかをワークショップ参加者と考察しながら、短く、ウェブ媒体やケーブルテレビ等でより数多くの人へ届く映像の社会教育教材（30－60 秒の公共広告計 5 本以上）を制作する。また、現職のメディア・クリエイティブやメディアの大学院生に、干潟及び沿岸環境により高い関心を持ってもらい、将来の活動に繋げてもらう機会を提供する。

五感に訴えない (Hidden from senses)	泥の下に存在する生物やその働きが見えない
影響の及ぶ範囲が広すぎる (Scale hidden)	干潟喪失による影響は他の海域にも広がるため分かりにくい
影響が時間遅れでくる (Time hidden)	干潟喪失の影響はその瞬間に感じることができない

表1： 干潟における「認知しにくい」リスク情報の存在

本活動では、日本海洋学会以外に以下の団体に呼びかけ、協力をお願いする：ＡＣジャパン(旧公共広告機構)名古屋事務局および東京本部、電通中部支社、中京ケーブルテレビ、環境教育学会、開発教育協会、湿地学会、メディア学会、ラムサール・ネットワーク、JAWAN(日本湿地ネットワーク)、WWF ジャパン、日本自然保護協会、IUCN 日本、Wetland International ジャパン、ラムサール条約事務局教育・コミュニケーション部（スイス)、世界湿地ネットワーク(イギリス)、Society of Wetland Scientists、など干潟や沿岸環境保全活動を行っている国内外の NGO やネットワーク団体。

干潟の公共広告は、日英両言語で制作しウェブサイトに掲載する。上記の団体を始めとした国内外の各団体にもリンクを提供し自由に利用頂く。また、ワークショップや制作活動により得た干潟の社会マーケティングの手法についても文章でまとめ、広く発信する。

活動予定：

時期	活動内容
2011 年 4－5 月	• 文献調査 • 昨年度の学び(以下参照)からワークショップ案を構築 • 本事業参加者募集(15－20 人：現職及び大学院生)
2011 年 6－9 月	• ワークショップ A(半日)＋干潟フィールドワーク(一日)準備及び開催 • ウェブサイト設立
2011 年 10－12 月	• ワークショップ B(半日)＋干潟フィールドワーク(一日)準備及び開催 • 干潟広告制作(ワークショップやフィールドワーク以外の時間に個人やグループで必要に応じて集まり、広告を制作する。大学のほうでミーティングのコーディネートや技術面および理論面でのサポートを行う)
2012 年 1－2 月	• 「環境と公共広告：干潟に焦点を当てて」公開シンポジウム(完成広告発表会も兼ねる)(参加者約 100 名予定) • ウェブサイトに完成広告を掲載し関連団体へリンク、ケーブルテレビにも打診(国内外で多数の人が完成広告を視聴及び利用) • 事業実施報告書の提出 • 海洋学会春季大会のポスター準備

○ 当該活動に関連するこれまでの実績

2010 年度後期には、池側隆之准教授（名古屋大学大学院国際言語文化研究科メディアプロフェッショナル論講座）と共同で「映像メディア制作論」を受講しているメディアを専攻とする大学院生 8 人と干潟広告制作の試みを行った。愛知県汐川干潟・藤前干潟をフィールドに、環境広告の在り方について考え、干潟について各 30 秒の広告を 2 本制作し、それらを AC ジャパン（旧公共広告機構）の学生 CM 賞へ 2 月頭に応募した。2011 年度は、この経験を基に、現職のメディア・クリエイティブに公開する形で、池側准教授及び協力団体と共同でワークショップを行い、人々に干潟をより近しく、重要に感じてもらうにはどのような環境情報のコミュニケーションや映像メディア制作が可能であるかについて実践・考察したい。

今年度、制作された干潟の広告 2 点（現在、ＡＣジャパン[旧公共広告機構]の学生 CM 賞に応募中）：

「その足元はいのち」(30 秒：制作代表者　西尾祥子)

「干潟の秘密はヒミツにできない」(30 秒：制作代表者　ウォン・イーリー)

本活動に関連した論文：

Yamashita, H. (2009) Making Invisible Risks Visible: Education, environmental risk information and coastal development. Ocean & Coastal Management, 52: 327-335

（現在、今年度のメディアの学生との活動についての論文をまとめています。その他教育関連の論文については、大学ウェブサイトをご参照下さい）

http://w3serv.nagoya-u.ac.jp/envgcoe/modules/members/index.php/fyh21/pd/02_yamashita.html

学会や学術集会における発表（干潟環境の情報コミュニケーションに関連する分野において）：

2008 年 11 月 17 日　中国武漢大学にて特別講義 “Barriers for citizen's participation in environmental decision making: Perspective of coastal development and conservation”

2008 年 11 月 20 日　中国上海交通大学にて特別講義 “Barriers for citizen's participation in environmental decision making: Case study of coastal development project in Japan”

2009 年 9 月 26 日　日本海洋学会『沿岸開発における環境リスク・コミュニケーションと教育:　諫早湾干拓事業及び三番瀬再生事業のケースを通して』

2009 年 3 月 31 日　カナダ・オンタリオ教育研究所（OISE）国際セミナー “Global Citizenship Education and Environmental Risk Communication”

2010 年 2 月 2 日　名古屋大学伊勢湾流域圏懇談会（GCOE　地球学から基礎・臨床環境学への展開）『環境リスク・コミュニケーション：干潟開発・保全における例と今後の伊勢湾流域圏での展開』

2010 年 2 月 23 日　中部地方環境事務所「生物多様性を支える市民・地域による戦略的地域づくりビジョン」のための意見交換会、『市民参画を促す働きかけ』

2010年3月1日　中国南京大学 The 1st Nanjing University-Nagoya University Joint Workshop on Climate and Environment, “Barriers for Effective Environmental Risk Communication in Asia: Case studies of Japanese wetland development and conservation”

2010年3月10日　ラオス・ビエンチャン National Agriculture and Forestry Research Institute (NAFRI)　国際ワークショップ “Local Tacit Knowledge and Environmental Risk Communication”

2010年6月21日　名古屋大学環境学研究科国際人材育成教育プログラム（NUGELP）招待講義 “Barriers for Effective Environmental Risk Communication in Asia: Case studies of Japanese wetland development and conservation”

2010年9月17日　環境共生学会ポスターセッション　『沿岸開発における環境リスク・コミュニケーション:　諫早湾干拓事業及び三番瀬再生事業のケースを通して』

2010年10月20日　国土交通省都市・地域整備局 COP10 関連シンポジウム：都市と生物多様性～都市における緑地空間の保全、再生、創出及びネットワーク化　“Citizens as Experts for Biodiversity Conservation”

2010年11月22-25日　第3回ウェットランド・リンク・インターナショナル国際会議（Third Wetland Link International Asia Meeting, Paya Indah Wetlands, Malaysia）、招待講演 “Translating the Science:　Environmental information on wetlands”

2010年12月5日　第42回　環境社会学会『干潟開発・保全について市民が受け取る環境情報の特性』

○ **経費の内訳**（会議費、印刷代、消耗品など）：

以下の内訳で合計金額30万円の助成金を申請致します。

経費項目	*詳細*	*金額（円）*
フィールドワーク交通費（20人x2回）	マイクロバス借用料、ガソリン代、ドライバー代、保険料、合計60,000円x2回	120,000
干潟利用料（管理者及び案内人への謝金）	規定額の7,500円x案内人2人x2回	30,000
ワークショップ開催費用	A(春)・B(秋)の2回、20,000円x2回	40,000
公開シンポジウム開催費用	会場費50,000円、ゲストスピーカー謝金(20,000円)および交通費25,000円（東京ACジャパンより予定）	95,000
消耗品	DVDやハードドライブ等、広告制作過程でのデータ共有のための消耗品	15,000
合計		300,000

以上、よろしくお願い致します。